

レンジフード取付説明書

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を示すために、誤った取り扱いをするおそれがある内容が「警告」「注意」の2つに区分しています。
- いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

- ▲ **警告:** 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
- ▲ **注意:** 人が傷害を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解・修理・改造をしないこと
分解・修理・改造禁止
- アースを確実に取り付けること
アースを取り付ける
- 自然排気型のストープを使用するときは、空気の入口(給気口)により十分給気される配慮をすること
取付注意
- 排気工事をされる場合は建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
取付注意
- レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラッパ網など)と接触しないよう取り付けをすること
取付注意
- 電源コードを束ねないこと
禁止

注意

- 交流100V以外では使用しないこと
使用禁止
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
取付注意
- メタルスズ張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルスズ、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けをすること
取付注意
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
取付注意
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
埋込禁止
- 電源プラグは根元まで確実に差し込む
必ず守る
- D種設置工事をおこなう
アース線接続

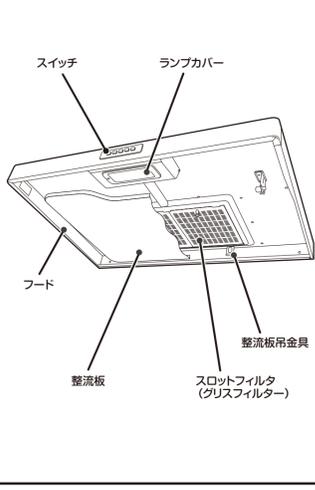
注意

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
接触禁止
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にすること
取付注意
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
取付禁止
- ファンや部品の取り付けは確実にすること
取付注意
- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
手袋をする
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
使用禁止
- 感電および故障の原因になります
使用禁止

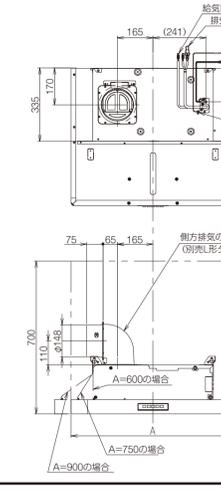
取り付け上のお願い

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
 - 大工工事(設置のための下地工事等)
 - 配線工事(コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等)
 - 管工事(ダクト配管及びレンジフードからのダクト接続等)
 流通業者(販売店)を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率低下します。
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けてください。
火災・故障の原因になります。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキップまたはパイプフードの通気抵抗は400m²/h時50Pa以下のものをご使用ください。
防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- ダクトの不燃処理について
 - ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
 - 施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 製品は調理機器の真上に取り付けてください。
なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上80cm以上になるようにしてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し本体内部に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に曲ったダクトは排気効果をいじり下ろさせたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフード取付面の補強部に、取付用ねじが確実に届くことを確認してください。
本体の取付用ねじは45mmの長さのものが同梱されていますが、壁下に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。
また、横方向50cm以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高温になるため故障の原因になります。
- 建物に密閉されている場合は必ず、約400cf程度の空気を入口に取付けてください。
- 部屋の中央で料理される場合は、油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。

各部のなまえ



製品寸法図



取り付け前の調査と準備

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
分解・修理・改造禁止
- レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラッパ網など)と接触しないよう取り付けをすること
取付注意
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
取付注意
- 排気工事をされる場合は建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
取付注意
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
埋込禁止
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
取付禁止

注意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にすること
取付注意
- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
手袋をする
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
取付禁止

1. 取付面の強度確認
製品を支える強さが必要です。

600幅	製品質量 12.0kg
750幅	製品質量 13.0kg
900幅	製品質量 13.5kg

2. 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

3. 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は調理機器の上面から製品の下端まで80cmです。
※火災予防条例では、グリッドフィルターの下端が調理機器の真上80cm以上必要となっています。

4. 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。(交流・単相 100V)
コンセントは、定格表示125V・15Aのアースターミナル・接地用コンセントを使用してください。
※電気配線工事は必ず有資格者が行ってください。

お願い 必ずアース(D種接地工事)をしてください。レンジフードが誤作動することがあります。

付属品

- 座付ねじ
φ5.1×45
6本
本体の取り付けに使用します。
- 排気口
1個
本体とダクトの接続に使用します。逆風防止シャッター付です。
- ソフトテープ
1本
排気口とダクトのすきまをふさぐのに使用します。

取り付けかた

1. 付属品の確認

注意

- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
手袋をする

梱包箱から付属品を取り出し、右上項の付属品一覧により不足がないか確認します。

お願い

- 取り付け作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。
- 保護用のクッション材と固定テープはキズ・破損防止のため取付作業が完了するまでははずさないでください。
- 床で作業する場合、本体及び床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。

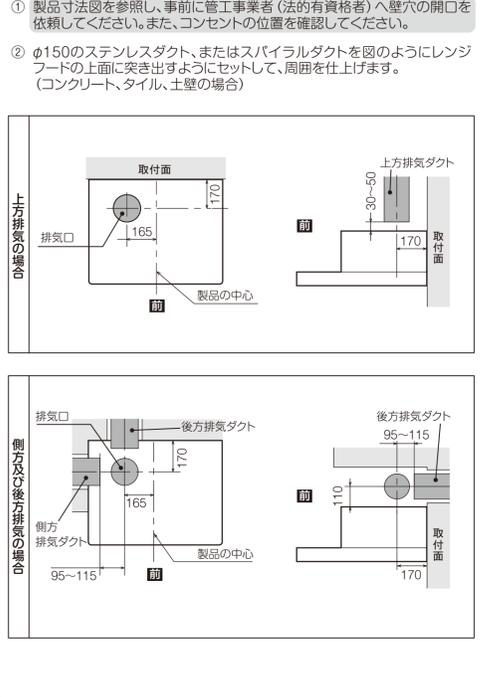
2. 排気方向の決定

警告

- メタルスズ張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルスズ、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けをすること
取付注意
- 排気工事をされる場合は建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
取付注意
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
取付注意

① 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者(法的有資格者)へ壁穴の開口を依頼してください。また、コンセントの位置を確認してください。

② φ150のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上面に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。(コンクリート、タイル、土壁の場合)



3. 排気用部品の準備

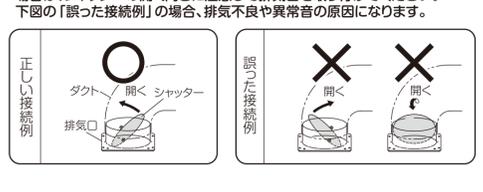
■ 上方排気の場合

- ソフトテープを排気口に貼り付けます。
- 排気口は本体上面の排気口引掛金具に差し込み、取付ねじ2本で取り付けます。(取付ねじはあらかじめ本体の排気口取付部に取付けてあります)

■ 側方および後方排気の場合(別売部品のL形ダクトを使用する場合)

- ソフトテープを排気口に貼り付けます。
- L形ダクトに排気口を取り付けます。排気口はL形ダクトに付属の取付ねじ4本で取り付けます。(本体への取り付けは後でおこないます)

お願い L形ダクトを使用しないで、排気口に直接ダクトを接続して側方・後方排気する場合は、シャッターの開く向きに注意して排気口を取り付けてください。下図の「誤った接続例」の場合、排気不良や異常音の原因になります。



4. 本体の取り付け

1 整流板をはずします。

- 整流板の左右を両手で支え、少し押し上げます。
- 左右のストッパーを押し込みながらゆっくりと10cm程度おろした状態で、整流板の後ろを持ち上げ、整流板吊金具からはずして手前へ取りはずします。

お願い 必ず左右同時にはずしてください。整流板吊金具の変形の原因になります。

2 製品寸法図を参考にしてだるま穴用座付ねじ2本をねじ込みます。

だるま穴用位置(左右各1ヶ所)に座付ねじ(φ5.1×45)を壁面とのすきま5mmまで締め付けます。

3 本体を取り付けます。

- 2で取り付けただるま穴用座付ねじに本体を引っ掛けたあと、しっかり締め付けます。
- もう1ヶ所の取り付け穴にも座付ねじをしっかりと締め付けます。

お願い 上方排気の場合は、ダクトに排気口を差し込みながらフードを取り付けてください。

③ 本体内部からも座付ねじ(左右各1ヶ所)をしっかりと締め付けて固定します。

5. ダクトと排気用部品の接続

お願い ドリリングタッピングねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図のドリリングタッピングねじ使用範囲内に固定してください。

■ 上方排気の場合
風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。

■ 側方および後方排気の場合(別売部品のL形ダクトを使用する場合)

- L形ダクトを本体上部の排気口引掛金具に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、取付ねじ2本で取り付けます。(取付ねじはあらかじめ本体の排気口取付部に取付けてあります)
- 風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。

排気口設置面の漏風確認のお願い
排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようすると、排気口と排気口の設置面(本体天面等)が変形し、排気漏れが発生してしまう場合があります。排気漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転(強運転)を行ってください。漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等(現地手配)で漏風防止処置をおこなってください。
※別売部品のL型ダクト使用時も同様に行ってください。

6. 電気配線

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
分解・修理・改造禁止
- アースを確実に取り付けをすること
アースを取り付ける
- 交流100V以外では使用しないこと
使用禁止
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
取付注意
- 電源プラグは根元まで確実に差し込む
必ず守る
- D種設置工事をおこなう
アース線接続

- アース線をアースターミナルに接続します。
※ガス管や水道管、電話や避雷針のアース線には、絶対に接続しないでください。(法令で禁止されています。)
- 電圧が100Vであることを確認してからコンセントに電源プラグを差し込みます。

7. 幕板の取り付け

■ 幕板に同梱されている取付説明書に基づき取り付けしてください。

8. 組み立て

整流板を取り付けます。

- 整流板の引掛部を整流板吊金具に引っ掛けます。
- 整流板をゆっくり持ち上げてパチンと音がするまで押し込んでください。
- 整流板を軽く上下に動かしてみても確実に取り付けられたことを確認してください。

9. 試運転

- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各連調の排気が正しく行われていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気されていることを確認してください。
- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
手袋をする

10. お客様への説明

■ 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
■ 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

製造元: 富士工業株式会社
〒252-0206 相模原市中央区海野2丁目1番9号
TEL 042 (768) 3754 (営業部)